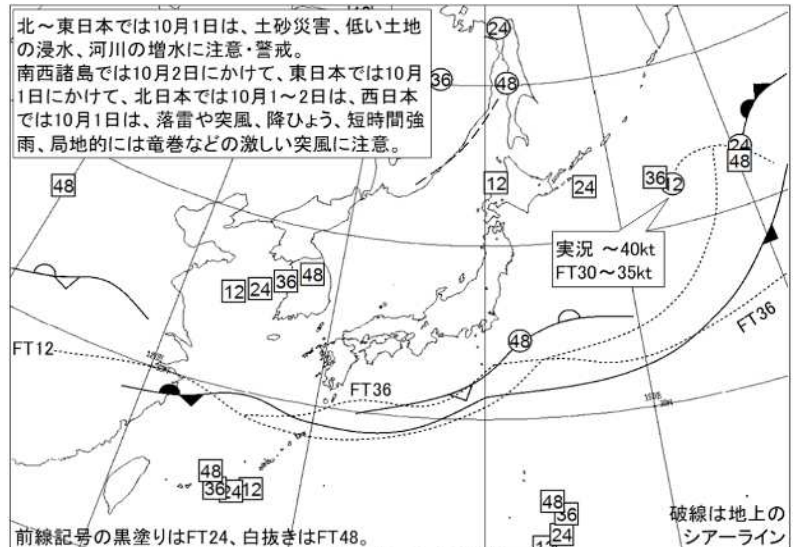


短期予報解説資料 2025年9月30日03時40分発表

気象庁

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5640m付近のトラフに対応して日本の東を東北東進する低気圧から、前線が日本の東～南西諸島～華中付近にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、前線近傍では雷を多数検知、南西諸島付近では猛烈な雨を解析。
- ② 大陸の高気圧の前面で、東～西日本日本海側と東日本太平洋側は気圧の谷となっている。本州付近を通過中の500hPa 5760m付近で-9℃以下の寒気を伴うトラフの影響で、気圧の谷近傍では激しい雨を解析。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 30日は、1項①の低気圧が日本の東から千島の東に進み、前線は日本の南～南西諸島付近に停滞する。北～西日本は、日本海北部から千島近海に移動する高気圧に覆われるが、東海道沖や四国の南は気圧の谷となる。前線や気圧の谷に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島や伊豆諸島では大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ② 10月1日は、2項①の高気圧は千島の東に移動し、黄海付近の高気圧が日本海に張り出して、北～東日本付近は高気圧の間の気圧の谷となる。500hPa 5760m付近で-12℃以下の寒気を伴うトラフに対応して、前線上の波動が東シナ海から四国の南に進み、夜までに前線上の伊豆諸島付近で低気圧が発生する。また、500hPa 5700m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフが北日本に進む。上空寒気と気圧の谷や低気圧及び前線に向かう下層暖湿気の影響で、北～東日本では大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。西日本や南西諸島でも、上空寒気や前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、短時間強雨に注意。
- ③ 10月2日は、2項②の低気圧が発達しながら千島の東に進み、朝鮮半島付近から日本海に移動する高気圧が本州付近を覆う。また、500hPa 5580m付近で-18℃以下の寒気を伴うトラフに対応する低気圧がサハリン付近からカムチャツカ半島付近に進み、低気圧からのびるシアーラインが北海道地方を通過する。500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応して、前線が華北付近～東シナ海にのび、前線上の低気圧が黄海付近に進む。北海道地方では上空寒気とシアーラインに向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。